



落合 真帆 (おちあい まほ) 第六中 2年生

作品名:「西の魔女が死んだ」を読んで

図 書:西の魔女が死んだ

「まいはそれが幸せだと思いますか。人の注目を集めることはその人を幸福にするのでしょうか。」

この言葉を読んだ時、まるで自分に問いかけられたのかと感じ、ドキッとしました。

「真帆ちゃんって引っ込み思案だよな。」

この言葉は中学生になってからよく友達に言われる事で、この言葉を言われると心が締めつけられ、苦しくなります。「どうせ私は引っ込み思案なんだ。」と消極的に物事を考え込んでしまいます。

私は人と話す事が大好きです。小さい頃は親戚、友達、保育園の先生、習い事の先生など沢山の人と交流するのが楽しくて大人の方達には可愛がってもらいました。

小学生になっても気持ちは変わらず、放課後残って担任の先生と世間話をしたり、時には自分が中心となって友達と楽しくお話をすることも多々ありました。

ところが中学校に進学する時、小学校で一緒だった友達も少なく、どんな人が中学校にいるか全く分からなかったため不安でした。右の席も左の席も違う小学校から来た子で何を話せばいいか、何なら話が合うのか、考えるだけでとてもつらく、息苦しくなりました。そして次第には現実から目をそらし、一言も発せず一日が終わる時もありました。

それからしばらくして、友達はやったものの以前のような明るさはなくなり、やがて

「真帆ちゃんは引っ込み思案だね。」

と言われるようになりました。そして今までこの言葉を根に持ち、あの時までにはなかった消極的で暗いという印象になりました。

あれから一年が過ぎた今、この本を読んでいたら、まいが直面している悩みについて冷静に言っている、魔女の言葉にこのような言葉がありました。

「だんだんに疑いの心や、怠け心、あきらめ、投げやりな気持ちが出てきます。それに打ち勝って、ただ黙々と続けるのです。そうして、もう永久に何も変わらないんじゃないかと思われるころ、ようやく、以前の自分とは違う自分を発見するような出来事が起こるでしょう。」

この言葉で自分は気づきました。印象を暗くしたのは自分自身だと。毎日少して

も頑張れば印象なんていくらでも変えられるということ。

最初まいは「もう学校には行かない。あそこは私に苦痛を与える場でしかないの。」と断言していました。ですが魔女修行に耐え、やがてまいは強い魔女になりました。

最初のまいは共感できたと感じました。けど最後のまいは強くなってしまったので所詮他人事だと考えてしまいそうになりました。

けれど今の私は前の私とは違います。確かに、前のように、沢山お話しをしたり、中心になって話す事はできないかもしれませんが、でも、沢山話すという事だけが、自分の幸せであり、その人を幸福にさせるものとは限らないと、この本を読んで知りました。そしていつか私も魔女修行をして西の魔女のようになりたいと考えています。

“西の魔女が死んだ” この本から学べた沢山の事を肝に銘じ、これからの生活に生かしていきたいと考えています。